

知恵 知ってこ生活の知恵

暮らしのアドバイス No.128

ファイナンシャル 仲西 康至 (音江町在住)



私たちの日常生活の身近な税金に、「酒税」や「たばこ税」があります。これらは、2018年度の税制改正にて、税率構造の見直し、段階的な引き上げが決定しており、先月（10月）から2段階目となる税改正が実施されたことを知っている人も多いでしょう。

お酒やたばこをたしまない人にとっては、関心も薄いかもしれませんが、愛好家にとっては家計に影響を及ぼす問題です。特に、北海道の喫煙率は高く、愛煙家も多くいます。

ところで、酒税とたばこ税は、個別消費税として扱われていることを知らない人もいます。いわゆる、酒税やたばこ税が掛けられているにも関わらず、その販売価格に、10%の消費税が課されていることから、税改正の影響を受けやすい項目といえるのです。

お酒とタバコの増税の影響は



今回の主な改正ポイントは、ビール系飲料の定義が見直され、特に発泡酒の麦芽比率によって、細かく分類されたことから、第三のビール等の新ジャンルと呼ばれる飲料品の税率が引き上げられました。

一方のタバコ税は、2018年、2020年、2021年のそれぞれ10月1日において、1箱20円ずつ、3段階の引き上げが決定しています。今回の引き上げでは、例えば「メビウス・レギュラー」ならば490円→540円（50円増）に改正されています。ちなみに、540円のうち税金分は365円程度ですので、たばこは税負担の大きい商品であることがわかります。愛煙家にとっては、「禁煙」の文字がいつもちらついています。長年の喫煙行動が習慣化しているため、急に辞めることは容易ではありません。例えば、電子タバコに変更するだけでも、月額負担は半分程度に抑えられるとする試算もあります。

新型コロナウイルスへの対策には、高い意識を持っていますが、一方、たばこの健康に対する脅威の大きさは過小評価されがちです。こうした税金の見直しタイミングにこそ、お酒やたばこのような嗜好品への、家計や健康への影響について考えてみては如何でしょうか。